

…大会特集号…

連盟会報

発行日：2015年(平成27年)10月20日

…◆第42号◆…(P-1)

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟

企画・構成・編集：広 報 部

…事務局… 〒130-0026

東京都墨田区両国 2-21-5 福ダイカンパザ802号

☎：03-3631-5851 FAX：03-3631-5852

第24回 日本抜刀道連盟全国大会 …鹿島神武殿で盛大に開催…

連盟創設以来二十四年を迎えた本連盟の『第二十四回日本抜刀道連盟全国大会』が秋晴れの快晴にめぐまれた十月五日(日曜)由緒ある剣の聖地、鹿島の本部道場「鹿島神武殿」に於いて、予定通り九時に開会し、大会は盛大に開催された。

開会式は「選手各位の、この一年の修練成果と、奮闘を期待し」只今から本連盟第二十四回全国抜刀道大会の開会を宣言する」と、大会実行委員長 中島正夫(連盟副会長)の気迫ある肉声の力強い、開会宣言で幕を開けた。そして国旗に拝礼。静寂なる、大会会場の中で一同は君が代斉唱。続いて、今日の連盟発展の陰には多くの先生方が亡くなられている。その御霊に、ご冥福を祈り私達の誠を捧げたいと黙祷を行った。

参議院議員・大会名誉会長 岡田 広 先生からは、抜刀術も、抜刀道へと『武』から『道』に、文字が変わることで刀術の心理を探索するという『道』としての高い精神性が求められる抜刀道となった。

鹿島神武殿館則「敬神・誠心・礼節・精進・日常」の五則では、武道を学ぶものは、常に敬神崇祖の念をもち、心を正し、礼節を重んじ、精進努力を怠らずに、日常の粗衣粗食を忘れずに、日々の修練を積む事が、抜刀道の神髄にある様に思うとの尊い貴重な言葉を戴いた。

また、大会会長 大江正男(連盟会長)は、連盟が永年に亘りご指導を賜った、鹿島神武殿の理事長 中村鶴治 先生が、昨年十一月にご逝去され、今回は寂しい大会となるが、抜刀道団結を提唱された、中倉清先生・中村泰三郎先生の意志を忘れる事なく、各連盟の交流を深めて行きたい。抜刀道の心得は錬磨するものであって、上達の妨げとなるのは『慢心や我執』である。本大会を安全第一に無事故で、好成績を納めてほしいとの挨拶があった。

続いて、大会顧問 中世古勝司(相談役)は、抜刀道は剣道の原点であり、我が国が世界に誇る精神文化の粋とも言えるべき、武道の源流を為す。そして真剣を用いての修練は、一寸の隙すら許されず、平素のたゆまざる鍛練と平常心を保つ精神力、正しい礼節から生まれる人間形成の道であるとの挨拶があった。



永年に亘り「鹿島神武殿」有り難う！
「修練と絆 ◆ 絆と連帯」

第24回 日本抜刀道連盟全国大会
連盟精鋭選手の雄姿と御来賓・本部役員集合写真
2015年(平成27年)10月4日 於：鹿島神武殿



武道の聖地… 鹿島神武殿での本連盟の抜刀道全国大会は、第24回の開催で最後となった。…
思い起こすと、本連盟創設の第2回全国大会『茨城県知事賞・茨城県議会議長賞・全日本剣道道場連盟会長賞』の争奪戦が「平成5年5月30日」に、ここ鹿島神武殿で開催されてから、時の流れ早く《22年》が経過した。

全国から集まった当時の精鋭選手の孤軍奮闘する「気迫と姿」が今でも目に浮かぶ。…
武道の道を通じ、現在実社会で活躍する、多くの人材を輩出した鹿島神武殿。その「神武殿」を、現在まで守り抜き有終の美を飾る、深牧正道支配人に敬意と、心からの感謝の気持ちを捧げたい。… 感謝 合掌。

大会会長：大江 正夫 ・ 大会実行委員長：中島 正夫

…開 会 式…

続いて審判長注意があり、中島正夫 大会審判長は、快晴に恵まれた鹿島の秋空：「快剣雲を払う」如く、この様に互いに、爽やかな気持ちで元気に再会出来たこと、何と素晴らしい事か喜びあいたい。

本大会は、選手諸兄がこの一年修練した修練成果を発表する、年一回の貴重な場であり奮闘を期待する…。

競技は「開始線に始まり、開始線」に戻るまでが、審判判定の基準となるので《気》を抜かずに、十分に《心技》を発揮されることを期待する…。

なお、競技会場は非常に狭隘化している、競技中の絶対安全の確保は、抜刀道《存続の生命線》である…。

この認識の基に、大会会場での愛刀の目釘の確認と手入れを含め刀を振るときは、安全委員の指示に従い、指定の場所で行う様にと指示徹底がなされた…。

▼続いて、第二十三回・団体戦優勝チームの「優勝旗返還」が讃岐抜刀道・古田忍選手からなされた。

▼「選手宣誓」は、同じく讃岐抜刀道・伏見由希選手が力強い宣誓を行った。

八段が、厳肅に静まりかえった会場で行った。

▼連盟制定組太刀は、中島正夫 大会審判長の立会い解説により、打太刀・藤田久男・教士七段・仕太刀・藤原義彦・錬士六段が凛々しい中に気迫ある演武を行った。

▼開会式が終了し、競技開始の「太鼓の合図」で各会場は、審判団の先生方を中心に、試合が展開され、開会式で静寂した大会会場の空気を破り、選手諸兄の《熱気と闘魂》が、ここ鹿島の地に走った…。

なお、総合司会は、福岡支部長 橋 蘭 一（教士七段）が務めた。



遠藤 仁 範士八段
松井 弘 教士八段
佐藤 淳一 錬士七段



◆【優勝旗返還】
讃岐支部(A) 古田 忍



演武（制定組太刀）
打太刀：藤田 久男 錬士七段
仕太刀：藤原 義彦 錬士六段
※「立合解説」中島正夫 審判長



打太刀 … 仕太刀

我々剣士一同は武士道の精神にのっとり日々の修業と鍛錬の成果を十分に発揮しこの歴史と伝統重んずる鹿島神武殿にて有終の美を飾ることを誓います。

◆【宣誓】讃岐支部 伏見 由希



◆武道の聖地…鹿島にはしる選手の気迫◆

武道の聖地…歴史ある鹿島の地。22年間に亘る「鹿島神武殿」本部道場での抜刀道全国大会は第24回の全国大会をもって、それぞれの選手が思い出でを胸に残し終了する…。

競技熱戦を通じ、参加選手の練度の向上が目立ち、各支部長・公認指導員を中心とした修練指導の成果を感じ取った。また大会競技は、審判主任を中心とした、審判団の真剣なるメリハリある審判判定の姿に、選手も刺激を受け、気迫ある素晴らしい競技展開となり有終の美を飾った。

なお、選手各位が孤軍奮闘した激戦の大会成績は下記の通り…。

大会実行委員長

第24回 高知支部(A)に栄冠 …中倉旗… 全国大会◆団体戦

▼文部科学大臣 殊勲賞

四・五段 優勝 廣川憲司(大阪支部)
「制定(形)個人」

▼中村泰三郎杯「制定(実技)個人」
四・五段 優勝 本山栄一(川崎支部)

制定刀法 個人戦「形・実技の部」

段別試合種目	優勝	準優勝	三位
制定刀法・形・個人戦			
初段以下	すずき ひさよし 鈴木 久慶 高知支部	こまつ ひでまさ 小松 英正 高知支部	とだ まさよし 戸田 大賀 高知支部
二・三段	あべ なつみ 阿部 夏美 川崎支部	よしはら やすお 吉原 安夫 島根抜刀道支部	すずき かつまさ 鈴木 勝政 水戸葵心会支部
四・五段	ひろかわ けんじ 廣川 憲司 大阪支部	もとやま えいいち 本山 栄一 川崎支部	せきほら まさる 関原 勝 埼玉支部
制定刀法・実技・個人戦			
初段以下	とだ まさよし 戸田 大賀 高知支部	こまつ ひでまさ 小松 英正 高知支部	なかがわ かなこ 中川 佳奈 忠勇会支部
二・三段	ふしみ ゆき 伏見 由希 讃岐抜刀道支部	ふかわ ひとし 富川 仁 川崎支部	よしはら やすお 吉原 安夫 島根抜刀道支部
四・五段	もとやま えいいち 本山 栄一 川崎支部	こばやし かつみ 小林 克己 尚武館支部	いばやし まさお 井林 幹明 仙台支部

制定刀法【団体戦の部】

段別試合種目	優勝	準優勝	三位
制定刀法・団体戦			
先鋒	すずき ひさよし 鈴木 久慶	ひらおか みよ 平岡 美代	かるべ しんや 軽部 慎也
中堅	はまだ さだあき 濱田 定昭	いなだ ゆうすけ 稲田 雄輔	くろだ のりみつ 黒田 了光
大将	ほそかわ たかし 細川 隆	おおたに やすひろ 大谷 康裕	にいざき ゆうき 新関 勇樹
支部名	高知支部A	讃岐抜刀道B	山形支部 川崎支部B



◆【審判 判定】◆
“体側45度”に素早く同時に上がる審判旗…。この審判団の豪々しく、的確な判断による態度が選手の“心意気と闘魂”を高揚させる…。

◆【競技開始前 審判打ち合わせ】◆

大会を成功裡に導く為に、審判長(中央)を中心に審判団との打ち合わせが行われる。



◆広報 便り

誰もが気づかない発想…。ただ単に活字を“見るのではなく”… 50cm ほど離して会報の1枚を眺めてほしい…。写真を挟んで活字を縦横に巧みに組み合わせ、絵画を眺めるような『絵心の発想』で一枚の作品として“構成・編集”がなされています。抜刀道を通じて自分の人生の記録を、セロケースに入れて机の片隅に飾るのもよし。名刺がわりに“COPY”して、記念に友への配布もよし。この様な“男のロマン”を勝手に抱き“連盟発展”の為、真夜中まで日々会報作りは続きます…。

【特集】各県各支部で活躍する“入賞選手の横顔”

個人戦 制定刀法(形)



【初段以下】
優勝 鈴木 久慶 (高知 支部)
準優勝 小松 英正 (高知 支部)
3位 戸田 大賀 (高知 支部)
3位 渡部 武夫 (英 信 館)



【2段 3段】
優勝 阿部 夏美 (川崎 支部)
準優勝 吉原 安夫 (島根 支部)
3位 鈴木 勝政 (莫 心 会)
3位 富川 仁 (川崎 支部)



【4段 5段】
優勝 廣川 憲司 (大阪 支部)
準優勝 本山 栄一 (川崎 支部)
3位 関原 勝 (埼玉 支部)
3位 井林 幹明 (仙台 支部)

個人戦 制定刀法(実技)



【初段以下】
優勝 戸田 大賀 (高知 支部)
準優勝 小松 英正 (高知 支部)
3位 中川 佳奈 (忠 勇 会)
3位 廖 一鴻 (台湾 支部)



【2段 3段】
優勝 伏見 由希 (讃岐 支部)
準優勝 富川 仁 (川崎 支部)
3位 吉原 安夫 (島根 支部)
3位 阿部 夏美 (川崎 支部)



【4段 5段】
優勝 本山 栄一 (川崎 支部)
準優勝 小林 克巳 (尚 武 館)
3位 井林 幹明 (仙台 支部)
3位 潘井 一彦 (笠間洗心館)

…◆制定刀法 団体戦◆…

■ 優勝 【高知支部(A)】



先鋒：鈴木 久慶 ※[優勝旗保持]
中堅：浜田 定昭 境 泰雅 高知支部長
大将：細川 隆

■ 準優勝 【讃岐支部(B)】



先鋒：平岡 美代
中堅：稲田 裕輔
大将：大谷 康裕

■ 三位 山形支部

大 中 先
将 堅 鋒
： 新 黒 軽
聞 田 部
勇 了 慎
樹 光 也



■ 三位 川崎支部(B)

大 中 先
将 堅 鋒
： 高 本 山
功 刀 橋 栄
一 好 夫



◆広報 便り

◆ 会報発刊方針 《企画・構成・編集》は、愛読する連盟会員の立場に立って『読み易く・親しみ易く』連盟活動を広く伝える為に“視覚”による、目からの“正確な情報”を提供する為に、ふんだんに“スナップ写真”を使い《構成・編集》をしております…
“会報42号”は、連盟創設以来2回目。特別に抜刀道を通じ築いた、皆さん方の“人生の記録”を残す為、入賞選手の雄姿を写真で紹介した…

“閉会式”

成績発表・表彰・審判長講評・閉会の言葉

▼ 閉会式では、永年に亘り連盟発展に多大なる尽力を戴いた鹿島神武殿 中村福義理事長に、大江連盟会長より感謝状がおくられた。

▼ 感謝状は、支配人：深牧正道先生が代理で、受理したが先生は、剣道錬士6段。道場の修業は日常の生活を根柢となす…日常を離れて道場なしの哲理をもって神武殿を守りつつ、剣道を通じ地元の青少年の健全育成にあたり、多くの人材を、この道場から『社会の第一線』に輩出している…。



↓ 団体戦 優勝者(左から) 鈴木先鋒・細川大特・濱田中堅

(左) 教士 橋 直七段。
(中) 錬士 藤 原六段。
(右) 錬士 野 口六段。



◆制定(実技)個人◆

(左) 大特：本山五段。(中) 李優勝：小林五段。(右) 浦井五段。



【称号 授与】



熱烈歓迎 … 台湾チーム！ Welcom Team Taiwan

■ 陳 永隆団長率いる台湾支部の精鋭選手7名が元気に来日し大会で活躍した。陳 永隆団長は、師範の留守中の稽古は、先ず師の教えを守り、稽古中の安全を確保する為に、稽古に入る前に必ず『目釘の点検・異のガタ・鞘の割れ』を点検させ稽古に入るとのこと。

台湾支部は、非常に統制がとれた行動と技の練度の高さが印象的で将来の期待大と感じ取った。…本部 広報部長…

▼ 陳団長(中央)以下、師範を囲む選手の記念撮影。賞状を持つ初段以下の部三位入賞の廖一鴻選手。



歓迎歓談

(右) 中島広報部長
(左) 菅野師範
…後姿…

■ 閉会の言葉

大会会長 大江正夫

選手の皆様、本日は早朝からの大会競技お疲れ様でした。本大会も皆さん方の「競技中の安全意識」のおかげで、無事故で終わることが出来ました。また、大会を陰から支えた会場設営準備と、これからの会場の撤去、そして進行記録・審判団・役員各位の手際よさで滞りなく終りました事に心から感謝しております。

記録に残る、今回の全国大会は選手各位の修練の「成果・練度」の向上が認められ各支部長を中心とした、地道な指導の成果が認められる…。審判団の先生方の真剣な「メリハリある判定」の姿に誘発される…。各位の気迫ある闘魂を込めた、有終の美を飾る、素晴らしい競技展開となった…。武道修練の中で「見取り稽古」と言う言葉があるが、競技を通じて、人の所作をみて《何かを感じとり》日頃の自分の稽古にぜひ生かしてほしい…。そして互いに来年も元氣な姿でお会いしようではありませんか…。終わりに、最後まで真剣に審判をして下さった審判団の先生方に、皆さん方と心からの大きな拍手をおくり、私達の感謝の気持ちを伝えようではありませんか…。審判団の先生方、有り難うございました。

■ 審判長講評

大会審判長 中島正夫

◆【台湾支部の紹介】◆

2003年発足。支部長：施 建隆(49歳)5段。会員数(台北市と台南市) 27名。

稽古：台北市立図書館(Pm18:30~22:00)まで稽古に励んでいる…。▼ 台北に会社を持ち経営する、事務局員 菅野 茂師範(教士八段)の月1回の訪台に合わせ、綿密な指導が行われる。皆さん明るく元気で意欲満々、今回の大会は初出場となり『初段以下の部/4名 … 4~5段の部/3名』が出場し活躍した…。

2015年(平成27年)4月22日(水曜日)

©日本経済新聞社 2015 (日刊)

日本経済新聞

4月22日

水曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 03-3270-0251
〒100-8585東京都千代田区大手町1-3-7
大阪本社 06-6543-7111
〒556-8686大阪府大阪市淀川区西中島5-1-1
名古屋本社 052-533-3111
〒460-8601名古屋市中区栄3-1-1
札幌支社 011-261-3211
〒060-0811札幌市中央区南一条西5-1-1

Daiwa Lease
大和リースグループ

リニア輸出に汗

JR東海、米で売り込み 図



春秋

日本でもっとも難しい試験は、剣道八段の審査だといわれる。なにしろ合格率は1%。「七段取得の後10年以上修業し、かつ46歳以上」の猛者が集まり、それぞれ計4回立ち合う。技量はもちろん風格や品位も問われる。10年以上挑み続け、70歳代で合格する人もいる。

出率は%、ANA

年



▼右記の記事は、去る四月二十二日の、日経(朝刊)一面トップ記事「春秋」に「日本で最も難しい試験」と題し、注目された報道記事である。
連盟広報部は、早速「全剣連東京本部」情報管理担当に電話取材し審査動向の確認をさせて戴いた。

▼剣道人口は、有段者だけでも、2015年(平成27年)3月末までに全県連に登録されている「剣道有段者」は、何と約「一七〇万人」(内、女子は四七万人)との事である。それにしても「剣道八段」審査は、厳しただけに価値がある。何しろ合格率は「1%」で100人に1人。
1000人で「10人」の合格率。さらに、今年の実績と動向を調査すると、何と平成27年5月2日に京都で行われた「八段審査」は、受審者942名に対し、合格者は僅か8名(0.8%)と日経発表より厳しい。

▼また、去る5月16日。愛知県名古屋で行われた「剣道七段審査」では、受審者966名に対して、合格者163名(16.9%)であり100人で約16人。1000人で約160人と、厳しい現実の世界である。

▼全日本剣道連盟の「剣道理念」…剣道修練の心構えと「綱領」に触れると、これぞ「剣の道の到達点は人間形成の道」と提唱されており頭が下がる。その一節に触れると、剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して氣力を養う。剣道の特性を通じ礼節を尊び信義を重んじて誠を尽くす。常に自己の修練に努め、以って国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与するものであると記されている。



▼尊い言葉であり、その奥は深く、正に「剣の道・修練」を通じた剣の理法の修練による、終わりなき「人間形成の道」なのである。
▼我が、日本抜刀道連盟も、全日本剣道連盟の剣道理念に相応する立派な「連盟綱領」の旗印を以て24年前に堂々と連盟を創設した。しかし、この綱領理念は「実行…実践」が伴ってこそ、初めて「価値と重み」そして「連盟の発展と自己の啓発」があるのである。

▼大江連盟会長は、永年に亘り指導理念として「抜刀道は斬る事のみになるな!」。「我執と慢心」は、自己の成長を止める」と言い続けており、正に抜刀道修練の神髄を突いた指導をされている。

▼ここで振り返ると、我が連盟では、制定刀法一〇本の「形と実技」により「初段から八段」までが評価認定される。

高段者の方は、この段位の差は「何処にあり、その違いは何か」を自己を見つめ考えてほしいし、私達は気づかなければならない。

現在、抜刀道は広く海外にも普及しつつある。しかしその反面、最近のインターネットを拝見すると「抜刀道は巻を斬る武道」と紹介し数本の巻を立って、日本刀をバットを振る様に扱い試斬する姿もあり、この発想には「情けなさと、無知な精神」に涙が出る。

しかし我が連盟は、刀匠が「鉄と炎と水」を使い「心魂を込めて」世界に類例のない鍛え上げた日本刀を使い「同格の武士同士の真剣勝負」を想定した、剣の理合いに基づく刀法で試斬し「心技の修練」をしており「人間形成・人格高揚・実践力」ある自分自身を築くところに「段位に応じた差」と、実力が生じるものと思料する。

▼連盟本部では年2回、本部主催「制定刀法・公認審判」伝達講習会を開催している。この機会を逃さず「審判の心得・審判判定」に自信をつける為にも高段者の方こそ率先して参加してほしい。

講師・大会審判長は常に言う。公認指導員は全国大会に於いては「公認審判員」となり大会運営の重要な要となる。連盟本部としては、公認審判員を迎えるにあたり新規に導入した「公認審判員」記事を着目して戴き公認審判員としての「誇りと、モチベーション」を高め、連盟発展の一翼を担ってほしいと切望している。

▼また高段者として、審判の見る眼があっても、最終判定は審判旗の上げ下げで決まる。つまり、制定刀法が「互角の武士同士の真剣勝負」を意識した「刀法所作」と「抜刀道は巻を斬る武道」との認識欠如で行う所作とは、うんでの差があるのと同様に公認審判員が最終判定する「審判旗の上げ下げ」には「メリハリ」が必要で、自分が判定を下す、審判旗の「一刀」によって「選手が育つ」のだ。!との「入魂一刀」の「心意気」で、審判旗の上げ下げを行って判定して戴きたいと力説する。

副会長 広報部長 中島 正夫
剣道 教士七段(全日本剣道連盟)

◆【心打つ！言葉の行間】◆

剣道の流派は足利の末期から徳川の初期にかけて三百余数あった。当時の武芸者は相手を求め諸国を武者修行したが、おりしも丸太一本の溪谷の橋にさしかかる。谷の底は一条の川が轟々と唸りをたてて流れている。剣を交え生死の間をさまよってきた、この武芸者、濁流に飲まれる恐怖感で、もしもと思案にくれていた。そこへ、一人の盲人が杖を頼りに、とほとほとやって来た。するとこの盲人、丸太を杖の先でトントンと叩き、うなずくと平然と渡って行った。

この姿を見た武芸者は、これこそ剣の道で言う「四戒四病」つまり「驚き・恐れ・疑い・悪い」の雑念に惑わされた自己の姿を掴み、更に修行を重ね、達人の域に達したと言った。

私の修練体験では、剣道の試合で、この「四戒四病」の一つが瞬間にでも、心の中に宿ると、相手をじりじりと追い詰めた状態に

…平常心…

◆所属支部◆ 川崎支部
◆武道歴◆

※…抜刀道 範士八段…
NPO法 日本抜刀道連盟
※居合道 錬士六段
全日本剣道連盟

◆趣味◆

※将棋・刀剣鑑賞
古典落語・スポーツ観戦
◆座右の銘◆ 《忍耐》
◆その他◆

※“自戒の言葉”にたどり来て未だ山麓…。46年の武道歴ですが「初心を忘れず」身体が続く限り修練に努めたいと日々精進している…。



大塚 光男(72歳)
本部 教務部長
川崎支部 支部長

綾瀬の駅を降りると、刀袋を肩に東京武道館に急ぎ足で向かう人の姿がある。東京武道館では、東京道場と称し、月に2回、大塚教務部長の指導による「実技中心の稽古会」が当日参加自由で行われている。この道場は、近い将来、本連盟の全国大会を東京武道館で行える様にと、菅野事務局長の奔走で、近県支部の協力を得て実績づくりと連盟活動のPRを、着々と行っており最近では、見学者も多くなり入会する人もいっている。

今から十三年前、抜刀道統一の気運の中で第四回の連合大会が、本連盟の第十一回全国大会を兼ねて神奈川県武道館で盛大に開催された。この時の若き大塚光男選手は、団体戦の大将で孤軍奮闘し見事に優勝した。この記録を当時の大会実行委員長は「さらなる発展を期す抜刀道」と題して、月刊誌「剣道日本」に特別掲載した。意外にも無修正で「一頁全紙」を使い掲載された。武道界からの大きな反響を呼んだ。権威ある「剣道日本」採用記事。この記録は本連盟20年史の永久保存の一頁に残され、現在、国立国会図書館(東京・京都)にて閲覧保存されている。

▼四十六年間の尊い武道歴。初心を忘れず身体が続く限り努めたいと言、謙虚で尊い言葉と行動力に頭が下がる。お人柄円満で、男のロマンを持つ大塚部長の「健康長寿」を願い、ここに紹介させて戴く…。

でも、打ち込めず、逆に相手に《先》をとられ、真剣なら命をおとす…。

この様に「剣の道・禅の道」でも《不動の心・平常心》を得る為に、紙一枚一枚を積み重ねる修行が積まれる。事にあたつての情報や環境に惑わされ心を動揺させると言うことは、容易な事でない。しかしこの《四つの戒め》は何も剣の道だけではなく、私達の日常生活の場でも言える…。

◆「大局をみつも、大計を誤らず」◆

心が一つの事にとらわれ揺れ動く正確な情報の基でも冷静な分析、判断に狂いが生じる…。

激動の渦中で、大物の政治家・企業のトップリーダーが、禅を組みの「雑念・悪い」を払い、静寂の中に《平常心》を掴む姿とみる…。

…広報部長…

広報《編集…後記》

■ 会報発刊方針 《企画・構成・編集》は、愛読する連盟会員の立場にたつて『読みやすく・親しみやすく』さらに、一人でも多くの会員が、この会報に登場し『修練と絆…絆と連帯』を目指し、会員各位の修練を通じた、元気な姿を紙面に残したいとの配慮の気持ちで編集しております…。

▼ 現会報は、インターネットとは、また一味違った角度からの企画・構成・編集であり、最近では、各界の武道団体からの

本連盟の活動に対する、関心も強く、その、ささやきが聴こえてくる…。

■ 毎号の会報発刊の為に、広報部長の元に、数百枚のスナップ写真が送られてくる。しかし、その写真も、一頁の原稿に《3~4枚》のスナップが厳選され、その一枚が掲載される。広く、連盟組織活動を伝える為に「視覚」による目からの正確な情報」を伝えたいとの認識の基に現在、広報精鋭/新人スタッフの《藤原義彦・小林克巳》の両氏が「孤軍奮闘」し頑張っておりますので、ぜひ皆さん方の力強い、ご声援をお願いしたい…。

本部 広報部長
中島 正夫



◆事務局 便り◆

本部 事務局長
菅野 茂



- ① 平成28年1月9日(土) 東京武道館第二道場にて(午前10時~16時)まで初稽古講習会を行います。終了後は別会場で新年会(会費制)を行います。
- ② 3月27日(日)。本部主催五段以下の審査会。終了後は、中心の稽古会を行います。
- ③ ④ 申し込み案内は、別途郵送。
- ⑤ 東京武道館第二道場。稽古会案内。
- 10月19日(月)。31日(日)。
- 12月7日(月)。14日(月)。
- (十八時~二十一時)まで。
- 平成二十八年度東京武道館第二武道場での、実技を中心とした稽古会。
- 日程は、11月(日)・12月(日)・2月(日)・3月(日)・3月(日)に決定。
- ⑥ 稽古時間(毎回十七時から二十一時)に変更。連盟会員は、当日自由参加が可能。

Report

会報42号は、41号に続き「63頁から70頁」の制作奮闘の計8枚構成です。

広報活動は、組織の「要」であり、各支部事務局はコピーして支部会員への配布をお願いします。…◆広報 部長◆…